平成15年度
チャレンジ・キャンペーン実施状況

平成16年3月
内閣府男女共同参画局

平成15年度
チャレンジ・キャンペーン実施状況

はじめに

男女が共に個性と能力を十分に発揮できる活力ある社会の構築に向け、小泉内閣総理大臣の指示を受け 1年にわたり検討を進めてきた「女性のチャレンジ支援策」が、平成15年4月の男女共同参画会議に報告され、内閣総理大臣及び関係各大臣に対する意見として決定されました。

同意見においては、2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう、各種取組を進めること、女性のチャレンジ支援のためのネットワーク形成を進めることなどについて提言されました。同年6月の男女共同参画推進本部においては、同決定に盛り込まれた積極的改善措置について、政府が民間に先行して積極的に女性の登用に取り組むことや女性のチャレンジ支援のための関連情報のワンストップ・サービス化、ネットワーク化を推進することが決定されました。

そこで、内閣府では、平成１５年度において、関係府省及び有識者からなる「チャレンジ支援ネットワーク検討会」を開催し、女性のチャレンジ支援のためのネットワーク構築に向けた検討を進めると同時に、夢と希望をもって多くの女性が様々な分野にチャレンジできるよう国、地方公共団体、大学等との協力において「チャレンジ・キャンペーン」を実施しました。同キャンペーンでは、ロールモデルとして活躍している女性に体験談等を語っていただき、後に続く女性にエールを送っていただいたほか、男女共同参画社会の一方の担い手である男性にも貴重なメッセージを送ることができました。同キャンペーンの一環として、厳しい就職環境に直面している女子学生・女子生徒が具体的かつ明確な職業イメージを持ち、夢と希望をもって様々な職業にチャレンジできるよう、「チャレンジ支援キャラバン」を大学で実施しました。

結果として、平成15年度において国や地方公共団体・大学等の自主的な取組として実施されてきたキャンペーンへの出席者は、約１万５千人を数えました。本報告書は、これらのイベントの概要について紹介させていただきます。また、広くご紹介させていただくことをもって、「女性のチャレンジ支援策」について各界各層の皆様の一層のご理解を賜り、チャレンジ支援関係事業にご協力いただきたいと考えております。

「チャレンジ・キャンペーン」にご尽力いただいた関係者の皆様、格別のご支援とご協力をいただいた有識者・企業・地方公共団体・大学等各界の皆様に心から感謝を申し上げます。

来年度は、「女性のチャレンジ支援」に関する支援策及び事例等を「チャレンジ・サイト」

平成15年度
チャレンジ・キャンペーン実施状況

<大学・内閣府・文部科学省主催・共催事業>

チャレンジ支援キャラバン

_ 10月14日　「ニッポンの未来は女性が創る」 ……1
～チャレンジ・キャンペーン　ｉｎ　早稲田大学～

_ 10月20日　チャレンジ支援ネットワーク検討会公開討論会（於　早稲田大学） ……3
「女子学生のための就職支援　就職が変わる！職場が変わる！」

_ 11月29日　「チャレンジであなたも変わる未来も変わる」 ……5
～チャレンジ・キャンペーン　ｉｎ　東洋大学～

_ 12月10日　「形のない夢への第一歩」 ……7
～チャレンジ・キャンペーン　ｉｎ　名古屋工業大学～

<地方公共団体・内閣府主催事業>

平成15年度男女共同参画フォーラム

_ 8月5,16日　平成15年度男女共同参画フォーラム　ｉｎ　大分
大分県～変わる　変える　一人ひとりが輝く社会～ ……8

_ 9月9,10日　平成15年度男女共同参画フォーラム　ｉｎ　ひょうご
兵庫県　～一人ひとりが、いま大切な存在であるために～
……8

_ 10月3,4日　平成15年度男女共同参画フォーラム　ｉｎ　みえ
三重県　～ひとりひとりのチャレンジ！　支える、つながる、みえの男女（ひと）～
……9

_ 10月23日,27日、11月10日
平成15年度男女共同参画フォーラム　ｉｎ　あおもり ……9
青森県　～自分らしく　支え合ってつくる　あったか社会～

_ 2月5,6日　平成15年度男女共同参画フォーラム　ｉｎ　さいたま
埼玉県　～築こう　一人ひとりが輝く彩の国～ ……10

2月12,13日　平成15年度男女共同参画フォーラム　ｉｎ　とくしま
徳島県　～女と男（ひととひと）　はばたく未来は　協働から～
……10

<女性知事リレーフォーラム>

_ 8月1日　女性知事リレーフォーラム in くまもと
「地域からのチャレンジ　～少子化の流れを変えるために～」 ……11

_ 10月25日　女性知事リレーフォーラム in おおさか
「女性のチャレンジ～男女共同参画モデルの形成～」
……11

平成15年度
チャレンジ・キャンペーン実施状況

<女性副知事サミット>

_ 10月18日　第15回ＫＹＯのあけぼのフェスティバル２００３　女性副知事サミット ……12
～時代(とき)を変える　いま京都から　あなたから～

<地方公共団体・大学主催事業>

その他イベント

_ 4月14日　大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)開所記念講演会 ……12
「女性のチャレンジと男女共同参画」

_ 8月28日　福島県市町村男女共同参画推進セミナー ……13
「女性のチャレンジは地域の元気」

_ 9月14日　第1回奈良県男女共同参画県民ミーティング ……15
「みんなで創ろう　輝く未来はじめの一歩　私にできること」

_ 9月29日　名古屋大学男女共同参画推進シンポジウム ……16
「女性のチャレンジ支援について～地域におけるチャレンジ・ネットワーク～」

○ 11月1,2日　日本まんなか共和国女性サミット～2003岐阜～ ……13

_ 11月12～17日　大分県男女共同参画チャレンジ支援事業「チャレンジ・デー」 ……17

_ 11月18日　石川県男女共同参画地域トップセミナー ……18
「地域におけるチャレンジ支援」

_ 11月19日　ふくい男女共同参画実務責任者セミナー ……14
「組織における女性のチャレンジ支援」

_ 11月23日　山梨県ぴゅあ総合20周年記念男女共同参画フェスティバル ……19
「暮らしの構造改革は男女共同参画で
～女性のチャレンジは、男性の元気、社会の活気」

_ 12月6,7日　熊本県パレアフェスタ2003 ……14
「あなたのチャレンジが未来を拓く
～女性のチャレンジは、男性の元気、社会の活気～」

「ニッポンの未来は女性が創る」　～チャレンジ・キャンペーン in 早稲田大学

平成15年10月14日（火）13:00～16:10、早稲田大学大隈講堂において、「チャレンジ・キャンペーン in 早稲田大学」が開催されました。内閣府男女共同参画局長の名取はにわ氏の挨拶、河合隼雄文化庁長官の基調講演「女と男の働き方の文化」に続いてパネルディスカッションが行われました。コーディネーターとして北村節子氏（読売新聞社調査研究本部主任研究員）、パネリストとして住田裕子氏（弁護士）、井藤滋子氏（日本電気株式会社）、鹿嶋敬氏（日本経済新聞社）をお招きし、「がんばれ女子学生～あなたのチャレンジ応援します」と題して元気の出る討論が展開されました。（参加者 約300名）

基調講演「女と男の働き方の文化」
河合隼雄氏（文化庁長官）

本日は大変難しい課題についてお話をさせていただくこととなったが、難しい問題に直面したからこそ人によって答え方が違っており、おもしろい。だからこそ、皆さんがこの問題について考察する際には、皆がどうしているかということではなく、私はどうするかというところから考えるようにしていただきたい。時代により、国により、またとらえ方により、この男女の問題は実に様々であり、単純に答えを導き出せるものではないが、和を基調とする日本では、正しいことでも立派なことでも合理的なことでも、和を乱すやり方ではなかなか取り上げてもらえないことが多い。そのような中で、この男女の問題を自分のものとして捉え、どうするとうまくいくか、男と女が互いに向き合って真剣にしっかりと対話をしていくことがとても重要。

パネルディスカッション
「がんばれ女子学生
～あなたのチャレンジ応援します」

北村節子氏
（読売新聞社調査研究本部主任研究員）

チャレンジには、管理職等の政策・方針決定過程に参画するという「上」へのチャレンジ、いろんな分野に活躍の場を求めるという「横」へのチャレンジ、そして出産・子育てなどでいったん仕事を辞めてから再就職するという時間軸の「再」チャレンジの3つの意味がある。

教育水準や健康、所得を用いて基本的な人間の能力がどこまで伸びたかを測るHDI（人間開発指数）は、日本は世界の中で9位であるのに対し、女性の社会進出度を測るGEM（ジェンダー・エンパワーメント指数）は44位。日本の女性は教育も受けていて長寿なのに社会を切り開いていないといえる。皆さんも是非多様なチャレンジをして社会を切り開いてほしい。

住田裕子氏（弁護士）

学生時代から今日に至るまで、男女差別というのは多かれ少なかれずっと今でも続いていると感じているが、少しずつ女性も強くなっていかないといけない。周りに不満だけを言うのではなく、私たち自らが力をつけ、意欲と能力に応じて活躍の場を与えられるということがこの「チャレンジ」の趣旨だと思っている。

私の場合はいろいろな幸運が重なって仕事と子育てが両立できたが、そうでなくても普通に子どもを育てるこ

とができ、仕事と子育てとの両立ができるような社会のシステムを作って行くことが必要。

本当に女性が活躍でき、女性の力を生かそうという会社をこちらから見つけて、皆さんの方から逆にアタックしていくぐらいの気持ちでがんばってほしい。日本社会ではそういう企業の方が今後伸びていくと期待している。是非本当の優良企業を探してみてほしい。

井藤滋子氏　(日本電気株式会社)

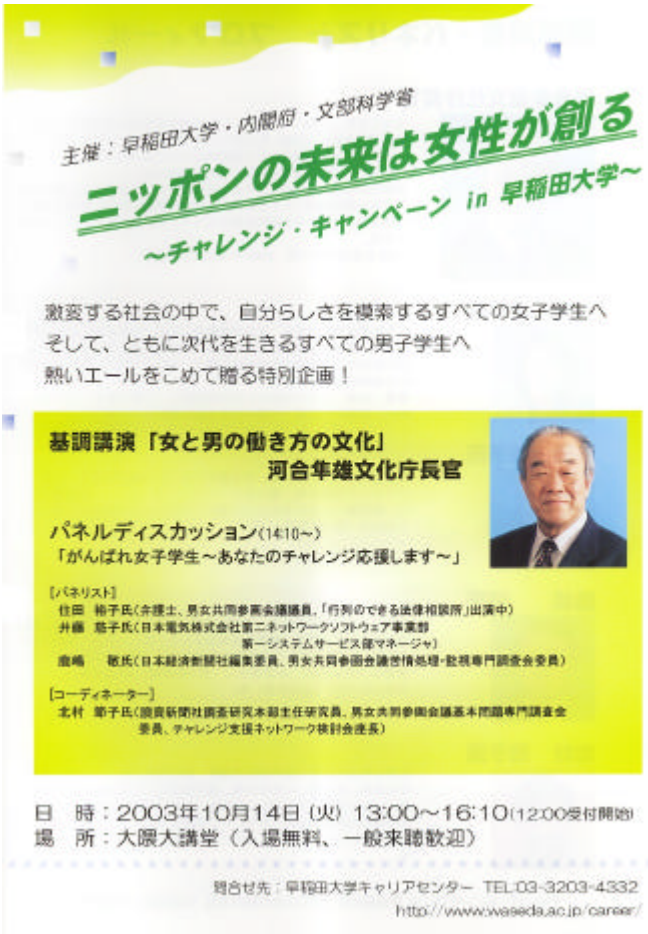
私が在学していた理工学部の女子学生は女性として扱われた記憶がなく、その後会社に入ってからも、実力さえあれば周りに引けを取らなかったと思う。

私は進歩の早いIT関連技術などの新しいことを覚えることが好きで、それをどんどん身につけていくと、会社はその技術を活かす場を提供してくれ、非常にうまく回っていた。男性だから理科系だとか、女性だから文科系だとかというのではなく、個人として自分に何が向いているかということで、自分が持っている力をいかにうまく伸ばして発揮していくかということが一番大切。私もそういう具合にしてここまでこれたのではないかと思う。

鹿嶋敬氏 (日本経済新聞社)

均等法第一期生のその後を追ってみたことがあるが、大体結婚・出産を契機に総合職女性たちが辞めているという傾向が読み取れた。男性型の職場風土というのは基本的には変わっていないと思う。四大卒の場合は、いったん会社を辞めると再就職が非常に難しくパートしかないという現状に直面している。

変わっていく契機として、2007年ごろから団塊の世代が定年を迎えその穴を女性で埋めようという考え方と、ポジティブ・アクションが企業に浸透しつつあるということが挙げられる。それに加えて、女性自身の気構えも大切。これから就職する学生にとって、働くということに対して、前向きに考えてポジティブな意欲を持った姿勢で臨んでいただきたい。そういうことが結果として皆さんの地位の向上につながっていくと考える。



◆学生の声

パネリストの方々が全く飾らない言葉と本音で社会の現実を語ってくださった。その中で、現実の社会は男女平等にはほど遠い状況であることを痛感させられた。国は法制度を整え、企業は「男女平等」を呪文のように唱えているが、実際の社会人の心理は追い付いておらず、形づくりばかりが先行してしまっている。しかし、男性でも女性でも、実力があればやはり企業に必要とされるわけで、「実績を作ることが、結婚や育児休暇の後でも戻りやすい職場をつくる」ということにつながり、「戻ってきてほしいと思われる人材」になることが肝要であることを学んだ。

実際に社会に出なければ分からないことであり、なかなか聞く機会もない貴重なお話は、今後社会に出ていくことを考える上で、大変参考になるものだった。

早稲田大学法学部　中島美紗央－

（「早稲田ウィークリー」第1011号より抜粋）

チャレンジ支援ネットワーク検討会公開討論会（於：早稲田大学）
「女子学生のための就職支援　就職が変わる！　職場が変わる！」

平成15年10月20日（月）14：40～16：40、早稲田大学国際会議場井深大（いぶかまさる）記念ホールにおいて、チャレンジ支援ネットワーク検討会公開討論会が開催されました。パネリストは、木谷宏氏（株式会社ニチレイマネージャー）、日下幸夫氏（早稲田大学キャリアセンター副センター長）、河野真理子氏（キャリアネットワーク代表取締役会長）、小林いずみ氏（メリルリンチ日本証券社長）、吉本圭一氏（九州大学助教授）の5名、コーディネーターは北村節子氏（読売新聞社調査研究本部主任研究員）が務められ、会場からの質問も交えて、活発な討議が行われました。（参加者：約200名）

北村節子氏
（読売新聞社調査研究本部主任研究員）

政府の女性のチャレンジを支援しようという背景には、少子高齢化の問題がある。世界の状況を見ると、職業を持った女性が多い国ほど出生率も高いと言われており、女性が仕事をしているから子どもが産めないというのは間違った先入観であることが分かってきている。日本の少子化をこれ以上進めずに、バランスの取れた人口構成をつくっていく上でも、意欲と能力に応じて、女性の雇用を確保していくことが必要であるという認識が生まれてきている。その一環として、若い人たちの社会への入場に際しても応援していこうとしている。

木谷宏氏
（ニチレイ総務企画部人材チームリーダー）

企業の社会的責任が女性の活躍を支えるはずである。1つは、「成果」の視点。これから主流になる女性を企業で育成して、大きな成果を出していく。2つ目は、お客さまからの「共感」。冷凍食品の市場が拡大したのは、まさに女性の社会進出と歩を一にしている。3つ目は、「公正」。従来、男女に格差があったならそれを是正するのは当然のこと。

ニチレイでは、ポジティブ・アクションを積極的に推進している。

日下幸夫氏
（早稲田大学キャリアセンター副センター長）

当大学では、学生サービス改革を打ち出し、低学年からのキャリア支援を強化しようと、平成14年にキャリアセンターが誕生した。私たちは、「男性だから・女性だから」という発想を転換し、「あなたは」というスタンスで学生と向き合っている。女子大生に何か言うとしたら、経済的に男性に依存することほど不確実でリスキーなことはないということ。進路多様化の時代だからこそ、女子学生には就職を重要な要素だと考え、自活の道を切り開いていただきたい。

河野真理子氏
（キャリアネットワーク代表取締役会長）

「人材ビジョン」とは、企業が、どの部門に、どんな人材を、何人、どのような雇用形態で採用するかというイメージである。それを知らないと、せっかく入社しても花を咲かせる道ではなかったというミスマッチが起きてしまう。それを解消するためにも、人材ビジョンを知っていただきたい。

企業は、先見性とか着眼力とかチャレンジ精神を求めている。社会に興味を持って、着眼力を持って、問題点を見つけ出してほしい。

小林いずみ氏（メリルリンチ日本証券社長）

バブルと前後して日本の金融機関が再編されたように、私たちは社会が再編されていくという大きな渦の中にいる。何がどう変わるのか、どういう産業が伸びてどういう企業が衰退していくのか、はっきりとは分からない。過去から将来を推測することの限界を考えると、今から就職する会社はどこがいいのかを考えるのは大変難しい状況にあるといえる。

経済産業省の研究会では、女性であれ男性であれ能力のある個人を遇するという企業風土を持つ会社は女性の就職比率や管理職比率、それから経営パフォーマンスにおいても、よい方向にあるという結論が出されている。皆さんも、オーダメイドの就職指導とオーダメイドの自分なりのキャリアの形成を考えていただきたい。

吉本圭一氏（九州大学助教授）

女性のチャレンジ支援に関わる問題を考えるときは、”キャリア”の概念を考えないといけない。多様なキャリアが社会を変えることになるが、そこでキャリアとは収入を得る職業だけではなく、家庭での仕事、地域での仕事を含めての役割、役割遂行の連鎖であり、そこで身につけられた知識、能力、態度を総合していうものである。

大学に求めたいのは再挑戦型の学生のチャレンジを支援し、これからのキャリア形成とこれまでの大学の位置づけを吟味していくこと。企業に求めたいことは、特に30 代前半くらいまでを大切にして再チャレンジができるよう努力していくこと。そして、社会全体として考えるべきことは、30 代までの多様なキャリア調整のための人的・財政的・ノウハウ的な支援を進めていくこと。

今年のヒット商品は学生キャリアアドバイザー ～キャリアの総合商社をめざす～

早稲田大学キャリアセンター

早稲田大学キャリアセンターが誕生して１年半が経った。従来のような就職活動の支援だけではなく、低学年からのキャリア支援の強化がその使命である。そのため、様々な行事を新たに企画した。専門家を招いて行う「キャリア講座」、各界で活躍する OB・OG の生き方に学ぶ「キャリア講演会」など、いくつもの新企画が動き始めた。

しかし、キャリアデザインは人それぞれである。社会構造・経済構造そして雇用環境の変化にともない、進路選択もますます多様化・個別化し、キャリアセンターの役割も個々の学生のニーズにどう対応するかが問われるようになる。

自分が何に向いているのか、どういうキャリアが自分に相応しいのかを、自らを振り返ることによって模索し見極めていく「キャリアプランワークショップ」は、やってもやっても希望者があとを絶たず、結局17 クラス750 人もの参加者があった。あなたのエントリーシート再点検、面接に成功するポイントは、グループディスカッションって何やるの、など就職活動のノウハウを短時間で手軽に聴くことができる「就活ミニセミナー」。毎週６コマを開催して参加者はすでに1500 人を超えた。

要するに、こまめにいつでも何かやっていて、キャリアセンターに行けばなんか得しちゃうという状況を作ることが大事なのだ。

ところで、いまどきの学生にとってパソコンや携帯電話はなくてはならない「武器」だ。企業情報の収集も企業との連絡もすべてインターネット。だから、就活中の子供を持つ親が、一日中在宅して企業からの電話を待つなどという苦労話は過去のことになった。しかし、彼らはメールに頼りすぎて人とface to face で話をすることがなくなった。昔は先輩から後輩へ様々な情報が口承伝達されていたのに、今はそれがほとんど行われていない。この情報化時代に、就活に望む学生たちが途方に暮れているのにはそんな理由もある。

そこで考え出したのが「学生キャリアアドバイザー」だ。最も生々しい就活体験を持つ４年生のノウハウをダイレクトに後輩に伝えよう、という意図で募集したところ２０人が手を挙げた。全く無報酬のボランティアで、後輩のためひいては母校のために役立ちたいという志を持った学生たちである。基礎研修を終え、2003 年 10 月中旬からウィークデーの午後「勤務」に就いてもらったが、これがたいへんな人気で、すでに300 人を超える後輩たちが先輩のアドバイスに励まされ、就活に飛び出していった。

さらに、学生アドバイザーたちはただ待っているだけでは物足りないと、2月 6 日にイベントを企画した。名付けて「ここだけの話ですが大会」。と言っても、決して下世話な話ではなく、彼らの体験をベースにして就活の基礎をテーマごとに設けたブースを利用して後輩に一挙に伝えようというものだ。運営のすべてを学生だけで行ったが、なにより驚いたのは学生たちのプレゼンテーションの上手なこと。250 人の参加者を集めて大好評だった。

自分の将来を見つめ、進路を探す学生たちに今何が必要かを見極め、それを様々なネットワークを活用して提供していくことこそ、これからのキャリア支援に求められることである。だから、私たちは言うのだ。早稲田大学キャリアセンターはキャリアの総合商社です、と。

「チャレンジであなたも変わる未来も変わる」～チャレンジ・キャンペーン in 東洋大学

平成15年11月29日に東洋大学で開催されたキャンペーンでは、女性を取り巻く環境が激変している中、これからキャリア形成を進めようとしている低学年学生（主に女子学生）向けに、どのような生き方、働き方が望ましいのかなどについて考えることを目的として、女子学生だけでなく男子学生や一般の方々も対象とした基調講演及びパネルディスカッションが実施されました。最初に河野真理子氏（株式会社キャリアネットワーク代表取締役会長）より、「就職から考える　これからのキャリアデザイン®」と題して基調講演が行われました。引き続き、大星公二氏（株式会社NTTドコモ相談役）、河野純子氏（「とらばーゆ」編集長）、広岡守穂氏（中央大学教授）より、それぞれパネリストの主張が行われ、それを踏まえたパネルディスカッションと会場からの質問・意見をもとにしたフリーディスカッションが白石真澄氏（東洋大学助教授）のコーディネートにより行われました。（参加者 約300名）

基調講演

「就職から考える　これからのキャリアデザイン®」

河野真理子氏

（キャリアネットワーク代表取締役会長）

変化していく労働市場、雇用環境を知り、就職を機会に今後の人生設計を考えるため、等身大の自分を見つめること、中長期でキャリアを考えること、将来像をイメージすること、ライフビジョンとキャリアビジョンを立てること、目標を持ってキャリアプランを立てること、そのキャリアプランに沿って自分を育てることや能力を伸ばす方策を考えることが大事。生涯キャリアの入口としての就職活動という局面では、社会人になるということを具体的にイメージして自分のプライオリティを知り、実行していくことが重要。

パネルディスカッション

大星公二氏（株式会社NTTドコモ相談役）

NTTドコモでは、一人ひとりが年齢・性別にかかわりなく能力のある人を有効活用していくことを実践してきた。性別、学歴、国籍をマスクして事務職の採用を行ったところ、女性の採用割合が45%となった。国籍に関しては、15か国にも及んだ。国際会議に出てみると、各国の参加者は女性が非常に多く目につくのに対して、日本は男性ばかり。社内でも、男性にない視点で商品開発等を行った優秀な女性がいた。国際的にみて、日本においてこれほどまで女性が活躍できていないのはおかしいと言っていい。国際競争が激しくなる中で、意欲と能力がある優秀な人を有効・適切に活用できるようにしていかないとやっていけない。

河野純子氏（「とらばーゆ」編集長）

一人の働く先輩として話をしたい。今思えば自分は大学時代は怠け者の部類に入ったと思うが、ここまで働き者になることができた理由を考えてみると次の4つのものが挙げられる。1つ目は、幸運にも自分の好きな分野で仕事ができたこと。2つ目は、性別や年齢にかかわらず個人の適正を重視してチャンスを与えてくれる会社にめぐり合えたこと。若い人や女性にもどんどん仕事を与えてくれた。3つ目は、たくさんのロールモデルに出会えたこと。会社に多くの女性がいた。4つ目は、一つひとつの機会を大切にしてチャレンジを続けてきたこと。やりたいこ

とがわからないと言っても、何もチャレンジしないことは一番もったいないこと。「適職は」いろいろチャレンジしてみてはじめて見つかるもの。時間はたっぷりあるので、是非楽しみながらチャレンジの一歩を踏み出してほしい。

た。妻は、子育てのためにいったん仕事をやめざるを得なかったが、再チャレンジをし再び社会に復帰している。そのパワーはものすごいものがある。男性の皆さんも是非家庭内において対等な責任分担をしてほしい。

広岡守穂氏（中央大学教授）

私はNPO推進ネットというNPOの活動も行っている。その中でも、働いている人は、最近女性が非常に多くなってきている。自身は学生結婚をし、子供が５人いて、家庭内における育児、家事分担を行ってき

学生チャレンジ応援隊の取組

東洋大学就職部

東洋大学は、平成 15 年 11 月の「チャレンジ・キャンペーン in 東洋大学」の実施に当たって、単なる一過性のイベントで終わらせるのではなく、このキャンペーンを契機として継続的なキャリア形成支援・就職活動支援プログラムを新たに企画実施したいと考えていた。偶然にも、就職活動を終えた４年生から、「3 年生のために就職講演会を行いたいが、就職課にも協力してほしい。」という相談があったので、その話をしたところ「面白そうなので、是非、やってみたい。」ということになった。そうして生まれたのが、「学生チャレンジ応援隊」である。

彼らには 11 月に開催するチャレンジ・キャンペーンの趣旨を説明し、そのテーマにそった内容のワークショップを行いたいという条件のみを提示し、具体的な内容を任せることにした。

まず、学生チャレンジ応援隊から出てきた企画が、「ジョン・レノンに学べっ！」というワークショップだった。彼らからの説明を聞くまで、チャレンジ・キャンペーンのテーマと全く結びつかなかったが、「ジョン・レノンとオノ・ヨーコ夫妻を通じて『夫婦のあり方、男女の関係』を考える」という視点は、とても新鮮であり、かつ我々からは決して出てこない着眼点と感じた。8 月上旬、埼玉県さいたま市にあるジョン・レノン・ミュージアムを見学し、その後ミュージアム内のカフェで行われた意見交換は、参加した多くの学生に新しい発見を与えたようだった。

その後、ハリウッド女優へのインタビューで構成された映画「デブラ・ウィンガーを探して」の鑑賞会（8 月下旬）、男女共同参画会議議員である神田通子学長（当時）を囲んで行われた「学茶会～結婚したらどうするの？？～」（9 月下旬）と、我々には思いもつかないワークショップが次々と企画され、彼らの手によって実施された。そして、キャンペーン実施の直前には本学卒業生を講師に迎えて、講演会「活っ！！東洋生～世界はもっと面白いはずだ。～」を行い、彼らの活動は１つの区切りを迎えた。

学生チャレンジ応援隊の活動を傍らから見ていて感じたことは、「彼らは彼らなりに悩みを考えている」ということだった。重要なことは、我々大人が懇切丁寧なお膳立てをすることではなく、彼らが、その思いや不安を解消するための“場”を、自らの手で作り出せるような支援をしていくことではないだろうか。それがひいては行動を起こすことをためらっている学生にも、何らかの影響を与えることになるに違いない。

今回の試みは、小さな一歩ではあったが、本学にとっては大きな第一歩であった。学生チャレンジ応援隊が残してくれた芽を大事にしていきたいと考えている。

形のない夢への第一歩」～チャレンジ・キャンペーン　in 名古屋工業大学

平成 15 年 12 月 10 日、名古屋工業大学講堂において、同大学の主催により、チャレンジ・キャンペーン　in 名古屋工業大学　形のない夢への第一歩」が開催されました。これは、今後増加するであろう女子学生に対して、様々な職業分野で活躍している女性達を招き、チャレンジに夢を持てるような機会を設けるために行われたものです。文部科学省としても、女性の多様なキャリア形成の支援に取り組んでいます。平成 15 年 10 月には、女性の多様なキャリアを支援するための懇談会において「多様なキャリアが社会を変える」第 2 次報告（女性のキャリアと生涯学習の関わりから）が取りまとめられ、その中で、一人ひとりが自分自身と環境の変化に柔軟に対応して、自ら意思決定していく能力・資質を養うことの重要性や、進路を設計する際に参考となるようなモデルを広く提供することの必要性などが提言されたところです。（参加者：約 100名）

筑波大学の渡辺三枝子教授による基調講演では、「夢」は形がなく、追うほどに変化し広がるものであり、特に変化が激しい昨今の社会では、学生時代の知識や経験と自分の将来が直接つながるとは限らず、むしろ人生を一歩一歩進むごとに少しずつ新しいものが見えてくるのであり、世の中を広く見ていく好奇心を持つことも重要であることなど、学生への示唆に富んだ講演をいただきました。そして、名古屋工業大学の 3 名の卒業生から、それぞれのキャリアの選択にあたって考えてきたことや、今後の取組姿勢、これからの学生に期待することなどをお話いただきました。佐藤幸恵氏（リアルスタイル有限会社）は、10 年間仕事をしてきたのは周りの人々のおかげで、それで自分が成長できたこと、大島尚美氏（名古屋市男女平等参画推進センター所長）は、自分が好きになれて、かつ社会的な意義や価値が見出せる仕事を選ぶのがよいのではないかということ、永田タカ子氏（トヨタ自動車株式会社塗装生産技術部）は、女性は注目されることが多く、否定されることも得することもあるが、チャンスを与えられたらそれをプラスに考え、活かすべきであることなどを話し、その後、学生達との意見交換がなされました。3 人の卒業生から体験に基づく話を聞いたことで、学生が具体的に将来を考えるよいきっかけとなり、また、女性が比較的少ない分野である国立の理工系大学で、女子学生支援のためのキャンペーンがなされたのも、意義の大きいことであったと考えられます。

平成１５年度男女共同参画フォーラム　in 大分
～変わる 変える 一人ひとりが輝く社会～

日　時：平成 15 年 8 月 5 日（火）
場　所：大分全日空ホテル　オアシスタワー
内　容：**第２分科会**　農山漁村における男女共同参画」
～働く女性のチャレンジ支援～
コーディネーター：
古賀　倫嗣氏（熊本大学教授）
パネリスト：
片山　信浩氏（農林水産省経営局女性・高齢者対策推進室長）
真鍋　ハマ子氏（美濃崎水産加工グループ代表）
河津　静子氏（矢瀬町生活研究グループ）
参加者：　約 190 名

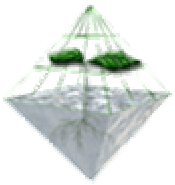
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

水産物・農産物の各加工直売所を営む二人のパネリストの自らの体験に基づいたチャレンジ事例の紹介と、農山漁村における女性の社会的、経済的チャレンジの現状、問題点、国、県、市町村等の支援制度についての説明がありました。

参加者の声：
- パネリストの実践に基づいた話、バイタリティあふれる行動、チャレンジに感銘を受けた。

担当者の声：
- 会場の皆さんとも活発に意見交換が行われ、とても内容の詰まったパネルディスカッションとなりました。

Challenge
Challenge



平成１５年度男女共同参画フォーラム　in ひょうご
～一人ひとりが、いま大切な存在であるために～

日　時：平成 15 年 9 月 10 日（水）
場　所：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
内　容：**第１分科会**　女性が活躍できる場を広げよう！
～上へのチャレンジ、横へのチャレンジ、再チャレンジ～
コーディネーター：
尼川　洋子氏（国立女性教育会館客員研究員）
パネリスト：
堀井　美千代氏（兵庫県経営者協会女性産業人懇話会代表幹事）
松浦　一枝氏（㈱アリーテ代表）
森　綾子氏（宝塚ＮＰＯセンター事務局長）
吉田　千春氏（加西市農業委員）
参加者：　約 120 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

女性が社会のさまざまな分野に、自分らしくチャレンジし、参画していくためには、何が必要なのでしょうか。さまざまな分野で道を切り開いてきたパネリストを迎え、女性のエンパワメントや、女性の活躍を一層進めていくための方策について、ご自身の体験に基づいた活発な議論が交わされました。女性のチャレンジに必要なことについては、「どんな仕事でもプロに徹し、チャンスを活かせる自分であること」（堀井さん）、「人にどう思われるかではなく、自分で選び、決めること」（松浦さん）との意見をいただきました。また、チャレンジをとおして「自分自身が変わったことは、いつの間にか、心（精神）も経済も自立していたこと」（森さん）、「女性農業委員の誕生が農村女性の意識改革につながれば」（吉田さん）との発言が続きました。

最後に、尼川さんからの「女性の力は埋蔵文化財。チャレンジの一歩は自分の力に気づき、自信を持つこと。一人が頑張れば、その一歩が女性全体の前進になる。女性たちが自分たちの思いで、自分たちのやり方をつくっていくこと。女性たちが自分らしくすることで、男性たちも変わっていく」とのエールに、会場を埋め尽くした女性たちの目は一段と輝きを増していました。

会場からの声：
- チャンスは逃さず、失敗はおそれず、一人ひとりが頑張れば社会を動かせると感じた。
- 時代の流れや自分の状況を把握して、目先のことだけでなく全体のことをみて、横のつながりを持ちながら、女性としての考えを発揮していきたい。

平成１５年度男女共同参画フォーラム　in みえ
～ひとりひとりのチャレンジ！支える、つながる、みえの男女（ひと）～

日　時：平成 15 年 10 月 3 日（金）,4 日（土）
場　所：三重県総合文化センター
　　　　多目的ホール　他
内　容：対　談　「女性のチャレンジ支援策の課題」
　　　　八代　尚宏氏（社団法人日本経済研究センター理事長、男女共同参画会議専門委員）
　　　　竹信　三恵子氏（朝日新聞記者、男女共同参画会議専門委員）
　　　　第 1 分科会　「どう進める？政策・方針決定過程への女性の参画の拡大　～思いから実践へ　あらゆる意思決定の場にチャレンジ！～」
　　　　第 2 分科会　男女の均等な機会と待遇の確保の実現に向けて　～働くひとへ　ここからチャレンジ！～」
　　　　第 3 分科会　暴力を許さない社会へ　ひとりひとりのチャレンジ！　～暴力の連鎖を断ち切るために～」
　　　　第 4 分科会　農山漁村における女性のチャレンジ！～ともに築く住みやすい農山漁村社会の形成に向けて～」
参加者：　約 500 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

対談に先立って行われた八代さんの基調講演に基づいて、竹信さんのお話しをいただいた後、現在、女性が置かれている立場や状況について、八代さんと活発に意見交換がなされ、事例の中から様々な課題が浮き彫りになりました。

分科会では、4 つのテーマについて、パネリストそれぞれの立場から現状、課題、今後の取り組みについて、お話いただきました。

参加者の声：

■ 女性も自分の能力に応じた仕事ができたら最高です。（50 歳代・女性）
■ 今の日本が男性にとっても問題の多い社会であることを初めて感じました。(20 歳代・男性)
■ 現在早急に考えていかなければならない問題提起がされ、あらためて男女共同参画について、いろいろな角度から考えることができて有意義であった。（50 歳代・女性）

担当者の声：

■ 2 日間で県内外から約 900 名（対談・分科会で500 名）の方に参加していただき大盛況でした。参加された方々にとっても、職員にとっても男女共同参画、女性のチャレンジ支援について考えることができる有意義な内容でした。

平成１５年度男女共同参画フォーラム　in あおもり
～自分らしく　支え合ってつくる　あったか社会～

日　時：平成 15 年 10 月 23 日（木）,29 日（水）,
　　　　11 月 10 日（月）
場　所：ぱ・る・るプラザ青森
内　容：基調講演　「チャレンジ！　わたしも変わる　未来も変わる」
　　　　岩男　壽美子氏（武蔵工業大学教授・慶応義塾大学名誉教授・男女共同参画会議議員）
　　　　第 3 分科会「女性のチャレンジを支援する　～能力と個性を活かせる社会を目差して～」
参加者：　約 500 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

[基調講演の概要]

国では、男女共同参画社会の構築に向けて、女性のためのチャレンジ支援策を進めています。これによって、より明るい未来が実現できるはずと考えています。

いつリストラにあうかも知れない今日、安心して暮らすためには一家に複数の財布を持つことは非常に大事であり、女性の参画なしに少子化日本は生き延びることができません。天然資源が少ない我が国は、人的資源には恵まれており、これを活かさない手はないのです。そこで、男女共同参画会議基本問題専門調査会で「3つのチャレンジ支援策」について次のような提言がなされました。

① 「上」へのチャレンジ
　目標をより高いところに設定し、チャレンジすること。
② 「横」へのチャレンジ
　今まで経験していない新しい分野に一歩踏み出すこと。
③ 「再」チャレンジ
　出産等の事情で仕事を中断した方が現役に復帰すること。

この中で、「上」へのチャレンジ支援策の一つ、ポジティブ・アクション（積極的改善措置）については「立法措置を視野に入れて検討」という非常に重い一文が入りました。

そのほか、千代田区では入札参加登録の審査項目において育児休業を積極的に進めている場合には加点したり、広島市では補助金の交付において男女共同参画の規定を設けたりと公契約と補助金における新たな取組も行われています。

特にチャレンジの問題では、とにかく誰でも、何でも、一歩踏み出すことから出発しなければ、この世の中は動きません。他人事ではなく、私たち一人ひとりのことだと思って、是非みなさんにチャレンジしていただきたいものです。

参加者の声：

■ 自分なりに考えたり、思っていることが、なお一層明確にすることができた。
■ 時間が短く、もっとお話を聴きたかった。
■ 「一歩前に出る勇気があれば、きっと何かが始まる」という気持ちになった。

担当者の声：

■ フォーラム当日は男性の参加者が予想以上に多く、またこれらの方々から「わかりやすい内容だった」との感想を受け、意識改革の一助になったと感じています。

平成１５年度男女共同参画フォーラム　in さいたま
～築こう 一人ひとりが輝く彩の国～

日　時：平成 16 年 2 月 5 日（木）15：00～17：00
場　所：With You さいたま（男女共同参画推進センター）
内　容：第 3分科会 「女性のチャレンジ支援」

コーディネーター：
広岡守穂氏（中央大学教授）
パネリスト：
坂本純子氏（新座子育てネットワーク）
尾崎千恵子氏（さいたま農村女性アドバイザー）
皆見知佳氏（中央大学法学部）
宮崎久実氏（いきいきネットはくい事務局長）

参加者：約 170 名(フォーラム全体で1,460 名)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

コーディネーターの広岡守穂先生から、女性がチャレンジする際、３つの方法がある、一つは学習が発展して活動や起業につながる場合、２つ目は行政とＮＰＯがパートナーシップを組んで、まちおこしや子育て支援などで起業する場合、３つ目は企業とＮＰＯがパートナーシップを組む場合などについて話がありました。

事例報告として坂本純子さんから、地域で子育てを応援するＮＰＯを立ち上げ２００３年には法人化して、市の子育て支援センターの運営を受託していることなどについて、尾崎千恵子さんからは、生産者と消費者とのネットワークを充実させ、世界の農家の女性たちと手をつなぎ「21世紀の地球を耕す女性たち」を合言葉にがんばっていることについて、報告がありました。中央大学の皆見知佳さんと古沢稔子さんからは、新潟県「都岐沙羅（つきさら）交流サロン 穂！人（ほっと）」の活動を通して住民、企業、行政が協力し合ってまちおこしをしている実践報告があり、宮崎久実さんからは、ＮＰＯと企業や行政とのパートナーシップについての実践例、「パートナーシップ・サポートセンター in名古屋」と「飛んでけ！車いすの会 in北海道」について報告がされました。

第３分科会の会場は１７０人を超す参加者があり、「女性のチャレンジ支援」について関心の高さがうかがえました。

平成１５年度男女共同参画フォーラム　in とくしま
～女と男（ひととひと）はばたく未来は 協働から～

日　時：平成 16 年 2 月 2 日（月）, 3 日（火）
場　所：ホテルクレメント徳島
内　容：第２分科会 「政策・方針決定過程への女性の参画」～今こそ レッツ チャレンジ～
パネルディスカッション
コーディネーター：
北村節子氏（チャレンジ支援ネットワーク検討会座長、読売新聞社調査研究本部主任研究員）
パネリスト：
立木さとみ氏（立木写真館株式会社常務取締役）
磯田正江氏（徳島県女性協議会会長）
玉置進氏(徳島県県民環境部男女共同参画課長)

参加者：約 200 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「男女共同参画フォーラム inとくしま」において、チャレンジ支援をテーマにした分科会を開催しました。

コーディネーターに北村節子さん（チャレンジ支援ネットワーク検討会座長、読売新聞社調査研究本部主任研究員）を迎え、3 人のパネリストと参加者（約 200 人）が、政策・方針決定過程への女性の参画を進めるためのチャレンジ支援策について、熱心に討論を展開しました。

北村さんからは、内閣府の3つのチャレンジ支援策（上へ、横へ、再）が報告され、政策・方針決定過程への女性の参画を進めるためには、情報が得られる仕組みづくりとネットワークが課題であるとのお話がありました。

参加者の声：
- 身近なところで始められる取組があることがよくわかった。
- チャレンジの機会は求めればどこにでもあると思った。

女性知事リレーフォーラム in くまもと
地域からのチャレンジ ～少子化の流れを変えるために～」

日　時：平成 15 年 8 月 1 日 (金) 13:00~16:00
場　所：熊本県立劇場
内　容：基調講話　広岡守穂氏　中央大学教授 (チャレンジ支援ネットワーク検討会委員)

ビデオ放映　県民の声」知事討論への導入として、少子化・子育てに対する県民の皆様の意見を紹介)

知事討論（ビデオで出された意見を踏まえて意見交換が行われました。）
コーディネーター：
広岡守穂氏 (中央大学教授)
出演：
堂本暁子氏 (千葉県知事)
太田房江氏 (大阪府知事)
潮谷義子氏 (熊本県知事)
参加者：約 1,800 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

千葉県、大阪府及び熊本県の３知事による国への政策提言を契機に、平成１５年８月から１０月にかけ「女性知事リレーフォーラム」が３府県で開催されました。第１回の熊本フォーラムでは、男女がともに子育てに向き合える社会づくりの大切さなどについて３知事が意見を交わしました。

担当者の声：
■ そのこと自体がロールモデルである３人の女性知事による討論会会場は、酷暑にもかかわらず１８００人の参加者で埋め尽くされました。

女性知事リレーフォーラム in おおさか
「女性のチャレンジ～男女共同参画モデルの形成～」

日　時：平成 15 年 10 月 25 日 (土)
場　所：大阪府立女性総合センター (ドーンセンター)
内　容：パネルディスカッション
パネラー：
高橋はるみ氏 (北海道知事)
堂本暁子氏 (千葉県知事)
太田房江氏 (大阪府知事)
潮谷義子氏 (熊本県知事)
コーディネーター：
橘木俊詔氏　男女共同参画会議議員、京都大学経済学部教授)
参加者：約 600 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

このフォーラムは、太田房江 (大阪府)、潮谷義子 (熊本県)、堂本暁子 (千葉県) の３女性知事の発案で、生活者の視点で社会を捉え直し、地域主権を地方から実現するため、女性知事が連携していこうと開催されたもので、これまで、熊本、千葉とリレー形式で開催され、今回が３回目となります。今回、高橋北海道知事が初めて参加し、女性知事全員が顔を揃えました。

始めに、名取はにわ内閣府男女共同参画局長による励ましのメッセージの後、「女性のチャレンジ」をテーマに4知事が熱心な議論を展開しました。まず、太田知事から、「男女雇用機会均等法、育児休業法など法的な整備は進んできたが、社会の根底から大きく変わるという意味の改革はまだまだ不十分。少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少する中で、日本が成長を維持するには、女性・高齢者が働ける条件整備が重要」と問題提起したあと、女性の活躍できる企業づくりの事例を紹介しました。潮谷知事は、平均年齢 70 歳を超えた女性達の活躍例をあげ、「貨幣的な価値のビジネスだけでなく、すばらしい人間のつながりからの起業化もある」と報告。堂本知事は「女性だけでなく、真の男女共同参画を実現するためには、男性のライフスタイルを変え、職場でも家庭でも、男女で協力し合っていくことが大事ではないか」と呼びかけました。また、高橋知事は、「福祉関連のビジネスなど女性が進出できる分野は無限。特に、女性のチャレンジを広げていく上でNPO や SOHO は重要な役割を果たしうるもの」と発言しました。

最後に、４女性知事は、今後も「4輪駆動」で力強く地域主権を先導し、国にも生活者の視点の実現に向けた提言を行っていくことを確認し、終了しました。

女性副知事サミット

レッツ　チャレンジ！女性副知事サミット　in 京都

日　時：平成15年10月18日（土）13：00～
場　所：京都府民総合交流プラザ（京都テルサ）
内　容：パネルディスカッション
　　コーディネーター：
　　名取はにわ氏（内閣府男女共同参画局局長）
　　パネラー：安藤よし子氏（滋賀県副知事）
　　　　　　　吉良史子氏（高知県副知事）
　　　　　　　稗田慶子氏（福岡県副知事）
　　　　　　　佐村知子氏（京都府副知事）
　　メッセージ紹介：大西珠枝（岡山県副知事）
参加者：　約1,000名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

男女共同参画社会の実現に向けて府内各地で活動する１７の女性団体で組織された実行委員会を中心に、「第15回 KYO のあけぼのフェステイバル 2003」を開催しました。特に本年度は、女性のチャレンジを考える企画をということで、全国の女性副知事の参加による「レッツ　チャレンジ！女性副知事サミット in 京都」を開催しました。

各府県の特徴や女性施策などを紹介しながら、「男女それぞれが能力や意欲に応じて自分らしい生き方を選ぶことができ、そしてその選んだ生き方や他人を認めあうことができる男女共同参画社会をどう作っていくのか」「女性のチャレンジにより社会が変わる」「男女共同参画を推進するためには地域に根ざした都道府県の役割が重要」などと、会場も一体となった意見交換がなされました。

最後に、全国の女性副知事5名連名によるアピール宣言を行い、男女共同参画社会の実現と府県相互の連携を誓いました。

地方公共団体・大学主催事業

大分県消費生活・男女共同参画プラザ開所記念講演会

日　時：平成15年4月14日（月）
場　所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」
内　容：講演「女性のチャレンジと男女共同参画」
　　岩男壽美子氏（男女共同参画会議議員、武蔵工業大学教授）
参加者：　約300名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

構造改革に女性のチャレンジが不可欠であること、世界の中でも日本の女性の活躍度は極めて低いこと、企業などの組織活性化の鍵は女性のチャレンジにあることなどの説明とともに、女性のチャレンジ支援の必要性について話されました。さらに、具体的支援の方向として積極的改善措置の推進、企業におけるチャレンジ支援策などが紹介されました。

参加者の声：
- ■ 今の社会を活性化するためには女性のチャレンジが必要だということに共鳴し、自分も何かチャレンジしたいという気持ちになった。

担当者の声：
- ■ 国の新しい取組をいち早く知ることができたことで、参加者のやる気を呼び起こすことができた。

福島県市町村男女共同参画推進セミナー

日　時：平成 15 年 8 月 28 日（木）
場　所：福島県男女共生センター
内　容：講演　「妻が僕を変えた日　～地域づくりと男女共同参画について～」
広岡守穂氏（中央大学教授）

パネルディスカッション
「女性のチャレンジは地域の元気」
パネリスト：
越後啓子氏（NPO カルチャーネットワーク理事）
菊田久光氏（三春町教育委員会）
水嶋いづみ氏（福島市男女共同参画情報紙「しのぶぴあ」編集員）

参加者：約 200 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

市町村にとって身近なテーマである地域づくりなどの視点から、男女共同参画の理念を啓発することを目的に、市町村男女共同参画推進セミナーを企画し、県内市町村の男女共同参画担当課長や職員など約 200 人が参加しました。

広岡氏の講演では、子育ての体験を通して子育ての大変さを男性も認識して協力することが大切であること、そして、現在国が行っている女性のチャレンジ支援を推進するためには、男性の意識改革が重要であることを指摘しました。

シンポジウムでは、パネルディスカッションによる地域での元気な活躍状況等について報告がありました。

参加者の声：
- ■ 広岡氏の自分育ての話に大変感銘しました。
- ■ チャレンジしている妻を立派に支えている話には関心しました。

日本まんなか共和国女性サミット～2003 岐阜～

日　時：平成 15 年 11 月 1 日（土），2 日（日）
場　所：飛騨・世界生活文化センター
内　容：記念講演　「明るい未来へみんなでチャレンジ」
岩男壽美子氏（武蔵工業大学教授・慶應義塾大学名誉教授）
女性リーダーの意見発表会・意見交換会、分科会において、「女性のチャレンジ支援」をテーマの一つとした。

参加者：延べ約 600 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「日本まんなか共和国女性サミット」は、福井、岐阜、三重及び滋賀の４県が、連携して男女共同参画を推進するための取組として開催している事業です。

記念講演においては、女性のチャレンジ支援の必要性、種類、各分野の現状と支援策の方向等について、講師のご経験を交えながら、分かりやすく丁寧にお話ししていただきました。

参加者の声：
- ■ これからは女性も色々な方面でチャレンジしていくことが大切だと思いました。

ふくい男女共同参画実務責任者セミナー
組織における女性のチャレンジ支援

日　時：平成15年11月19日（水）13：30～16：00
場　所：福井県生活学習館　多目的ホール
内　容：**基調講演**　「これからの人材育成と活用～一人ひとりの能力を最大限発揮させるために～」
河野真理子氏（チャレンジ支援ネットワーク検討会委員、㈱キャリアネットワーク代表取締役会長）

分科会
「企業での男女共同参画の取組みについて」
「セクシュアル・ハラスメント対策について」
「男女共同参画によるまちづくり」
参加者：約160名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

福井県では、男女共同参画社会の実現には家庭や地域、職場等において、行政・企業・民間団体等が連携して取り組むことが重要であると考え、行政・企業・民間団体等のあらゆる組織において、男女共同参画に対する理解と取組み意識の浸透を図り、女性が組織の中でその能力を十分に発揮できるよう、管理・研修・雇用等の実務責任者向けに「ふくい男女共同参画実務責任者セミナー」を開催しました。

○対象：市町村等の総務、男女共同参画、商工労働担当の部課長、事業所の人事労務担当部課長、民間団体等の人事、総務担当部課長、自治会長

担当者の声：
- 男女共同参画社会の実現にとって、女性が活躍できる環境を整えることは重要であり、また、企業等が業績を伸ばしていくには、女性の能力を発揮させることが大切であることを十分理解してもらえたと考えています。

パレアフェスタ2003　あなたのチャレンジが未来を拓く
～女性のチャレンジは、男性の元気、社会の活気～

日　時：平成15年12月6日（土），7日（日）
場　所：くまもと県民交流館　パレアホール
内　容：**基調講演**
「女性のチャレンジ　～上へ、横へ、そして再び～」
坂東眞理子氏（前内閣府男女共同参画局長）
ワークショップ等
女性のチャレンジ支援に関する先導的な３４ものワークショップ等を実施
参加者：約2,800名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

参加者の男女共同参画への意識を高め、女性がその意欲と能力に応じて再就職等の雇用や起業、ＮＰＯ、農林水産、まちづくり、地域社会、行政、国際等の各種分野の活動に積極的に参画していくことを可能とするため、独立行政法人国立女性教育会館と共催により「パレアフェスタ2003」を開催しました。

個々のプログラムでは、「はたらく女性のための講演会」、「一緒に築こう楽しい我が家」、「プレ・パパママ教室」、「コミュニティビジネスを考えよう」、「主婦からのチャレンジ」、「地域リーダーとしてのチャレンジ」、「女子学生チャレンジ支援就活入門セミナー」、「命を育む食と農」などのワークショップを実施し、基調講演に沿う上へのチャレンジ、横へのチャレンジ、再チャレンジを提案できました。

参加者の声：チャレンジ精神で常に一歩踏み出す勇気が出た。
- 再就職に関する話がとても実践的だった。
- 企業における男女共同参画の意識、取り組みが分かった。
- このような企画はぜひ頻繁に行ってほしい。

担当者の声：
- 今回のパレアフェスタは、男女共同参画センターだけでなくパレアの各センター、男女共同参画社会をめざす団体、ＮＰＯ団体、ボランティア団体、国の機関等もテーマに沿う企画、運営を行い、パレアの複合機能を活かし女性のチャレンジ支援が一歩進んだと思われる。

第1回奈良県男女共同参画県民ミーティング
「みんなで創ろう 輝く未来はじめの一歩 私にできること」

日　時：平成15年9月14日（日）13:00～ 16:00
場　所：斑鳩町文化振興センター（奈良県生駒郡斑鳩町）
内　容：基調講演　「みんなで創ろう 輝く未来」
久保真季氏（内閣府男女共同参画局推進課長）

パネルディスカッション「はじめの一歩　私にできること ― 男女共同参画社会の実現に向けて」
第1部　活動発表
パネラー：
小城利重氏（斑鳩町長）
遠山健氏（斑鳩町立あわ保育園保育士）
松元恭子氏（いこま育児ネット代表）
コーディネーター：
杉井潤子氏（奈良教育大学助教授）

第2部　意見交換
参加者：約210名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

■男女共同参画県民ミーティングについて
県民の意見を取り入れながら地域に根づいた男女共同参画を推進することを目的として、広域市町村圏を対象に、県・県男女共同参画県民会議の主催により開催するものです。県内を6地域に分け、年間2地域で実施します。（平成15年度～）

■第1回ミーティングの概要
基調講演では、女性のチャレンジ支援策について、幅広い分野で女性の活力を生かす環境整備やネットワークづくりの現状と目標が説明されました。
続くパネルディスカッション第1部では、小城町長が先進的に取り組まれてきた斑鳩町の男女共同参画施策について、遠山さんが男性保育士になった経緯と体験について、松元さんが地域で取り組んでいる育児サークルの活動について、それぞれの立場から発表されました。第2部では、基調講演やパネラーの発表などに関して多くの質問や意見が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

参加者の声：
- ■ 国のチャレンジ支援策の概要がよくわかり、未来の子どもたちの扉が大きく開くのではとうれしく思った。（40代女性）
- ■ 行政と民間がネットワークを作り、まず情報交換することが男女共同参画を進めるために重要だと思った。（20代男性）
- ■ パネラーがそれぞれの立場での取組みを分かりやすく発表されており、テーマについて身近に感じられた。（40代男性）
- ■ 地域のカラーが出ていてよかった。（50代女性）

名古屋大学男女共同参画推進シンポジウム

日　時：平成 15 年 9 月 29 日（月）
場　所：名古屋大学シンポジオン・ホール
内　容：基調講演　「女性のチャレンジ支援について～地域におけるチャレンジ・ネットワーク」
名取はにわ氏（内閣府男女共同参画局長）

パネルディスカッション　「産学官各分野における現状の課題と産学官連携に期待すること」
パネリスト：
近藤薫氏（愛知県県民生活部社会活動推進課男女共同参画室長）
横田啓子氏（名古屋市総務局総合調整部男女平等参画室長）
柴山忠範氏（愛知県経営者協会専務理事兼事務局長）
橋本新氏（連合愛知調査・広報局長）
田村哲樹氏（名古屋大学男女共同参画室）
参加者：約 70 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

名古屋大学では平成14年度に引き続き、第2回めの男女共同参画社会推進シンポジウムを、276名の参加者を得て、開催しました。
はじめに、松尾稔名古屋大学総長より本学の男女共同参画推進の流れとシンポジウム開催主旨の紹介があり、伊藤正之名古屋大学副総長から、男女共同参画推進専門委員会・男女共同参画室の紹介と、名古屋大学の現在の取り組みについての説明がありました。

続いて、内閣府男女共同参画局長　名取はにわ氏から、「女性のチャレンジ支援について～地域におけるチャレンジネットワーク～」と題して、内閣府が進めているチャレンジ支援の概要と今後の取り組みについての基調講演があり、その後のパネルディスカッションでは、各パネリストから各機関の男女共同参画に関する現状と取り組みや、男女共同参画のあり方等についての意見の発表の後、男女共同参画に関する産学官連携の意義について討論しました。

男女共同参画
産学官で連携し推進を
名大でシンポ
フォーラム創設合意

（2003 年 9 月 30 日中日新聞より）

パネルディスカッションの最後には、コーディネーターの金井篤子名古屋大学総長補佐から、男女共同参画を推進するための産学官連携フォーラム創設を検討する準備会を立ち上げることの提案があり、パネリスト全員一致で承認されました。今後このシンポジウムを契機として、男女共同参画産学官連携フォーラムを地域で立ち上げたい考えです。

このシンポジウムの詳しい内容については、名古屋大学男女共同参画室ホームページをご覧ください。

（http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/　）

参加者の声：
■ パネリストの発言に非常に共感を覚えた。大学の教官がこれらの考え方を本にして広く発表してくれるとよい。

担当者の声：
■ 今回のシンポジウムは、学外からも参加できるオープン形式としたところ、近隣の大学、県内の自治体関係者、企業の人事部などからの参加が 70 名を超え、男女共同参画についての社会的な関心の高さがうかがわれました。

大分県男女共同参画チャレンジ支援事業
「チャレンジ・デー」

日　時：平成15年11月12日(火)～11月17日(月)
場　所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ(アイネス)
内　容：シネマ・フォーラム
　　映画「ショコラ」上映・パネルディスカッション
　　ワークショップ（県民による自主企画（公募））
　　・「わたしたち、ぼくたちの男女共同参画」
　　　　　　　　　　　　　　　　ほか7企画

企画資料展「女性のチャレンジ支援」
Ⅰ　パネル展示
　（企画運営スタッフ(ボランティア)制作）
　・男女共同参画社会づくりの必要性
　・男性視点による女性のチャレンジ支援
　・行政・起業による女性のチャレンジ支援　ほか
Ⅱ　資料展示・配布
　「女性のチャレンジ支援策について」、「男女共同参画社会の実現をめざして」など内閣府ほか各省庁、関係機関作成のパンフレットや資料等を展示・配布するコーナーを設置、情報提供を実施。

参加者：約3,000名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

男女共同参画社会の実現に向けたチャレンジ支援の一環として、大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）において「チャレンジ・デー」を設定し、県民の意識改革や自主的な活動の促進を図るとともに、より多くのチャレンジの事例・情報を提供するためのイベントを実施しました。

また、事業効果を高めるため、アイネスで実施する県民参加行事「アイネスフェスタ2003」期間中に開催しました。

■ 併催事業
・管理監督者公開講座
「両立支援／共同参画型社会をめざして-ベネッセの事例-」
講師（(株)ベネッセコーポレーション　金代健次郎取締役）ほか

参加者の声：シネマフォーラムは、男女共同参画事業としてはとても親しみやすい企画で、会場が一体となり熱く語り合うことができて満足しました。ワークショップも興味深いテーマの企画が多く、すべてに参加できなかったことが残念でした。

担当者の声：
■　4月オープン以来、県民手作りによる初のビッグイベントとして開催しましたが、期間中約3,000名の方々に参加していただき、県民のみなさんに広く愛される施設を目指すという所期の目的を達成することができました。

石川県男女共同参画地域トップセミナー

日　時：平成 15 年 11 月 18 日（火）
場　所：フォーラム七尾　多目的ホール
内　容：講演　「地域におけるチャレンジ支援」
河崎由美氏（内閣府男女共同参画局推進課課長補佐）

パネルディスカッション
「家庭・職場・地域における男女共同参画」
パネリスト：
武元文平氏（七尾市長）
萩原扶未子氏（㈱ジーアンドエス社長）
戸田洋氏（㈱戸田組社長）
河崎由美氏（内閣府男女共同参画局推進課課長補佐）
参加者：約 220 名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

石川県では、地域において指導的立場にある市町村・企業の幹部及び町内会・公民館等の役員の方々を対象に男女共同参画地域トップセミナーを開催しました。基調講演では、国の直近の男女共同参画推進施策である「女性のチャレンジ支援策」について、内閣府の河崎由美氏が具体例を取り入れたお話をされました。続いて、パネルディスカッションでは、七尾市男女共同参画市民ネットワーク（民間団体）による市民の連携・まちづくりへの積極的な参画・情報の提供など、地域での取組や女性のチャレンジしやすい環境づくり、社会参画の意欲を高めることの重要性等が活発に討論され、また、会場との意見交換も行われました。総括では、企業、地域行政にかかわらず組織の活性化というキーワードに男女共同参画という視点を取り入れた活動を進めていくということで締められました。

参加者の声：
- ■ 男女を意識しない人としての視点や対応が大切と感じました。仕事に対する意識やチャレンジ意欲を男女共に高める職場づくりを考えたい。（40 代男性）
- ■ 地域では具体性となると難しい面もあるが、徐々に女性の発言力、元気さがでてきて地域が活性しはじめている。（60 代男性）
- ■ これからの重大なテーマであり、トップセミナーに相応しくチャレンジへの重要性も大変分かり易く、今後に活かせるセミナーでした。（30 代女性）
- ■ 女性の能力活用の実践紹介があり、チャレンジしておられる姿に地域での今後の見通しが明るく感じた。（50 代女性）

担当者の声：
男女共同参画社会は、少子高齢化、グローバル化など我が国の社会経済情勢が急速に進展する中で、「大変重大なテーマであること」。「女性の能力が十分活用されていないのでどのようにして参画する機会を創るか」。「男性の仕事への負担が過剰であり、ゆとりある生活をどのように創るか」。など、「現実の中でどのように男女共同参画を地域活性化に繋げていくか」ということを念頭に、できるだけ、地域に影響力のある指導的立場の皆様が理解しやすいように努力したつもりです。
会議運営にあたっては、市民ネットワークの皆さんには、企画運営会議をはじめ当日のセミナー開催支援に積極的にかかわっていただきました。また、会場周辺の市町村では、現在、合併の準備が進んでいますが、市町村によって男女共同参画の取組に差違があることから、当セミナーの参加者を広く募集することで、男女共同参画への理解を深める機会を提供させていただきました。

Challenge
Challenge

ぴゅあ総合20周年記念男女共同参画フェスティバル

日　時：平成15年11月23日（日）
場　所：山梨県立総合女性センター
内　容：記念講演
　「暮らしの構造改革は男女共同参画で」
　～女性のチャレンジは男性の元気、
　　　　　　　　　　　社会の活気！～
岩男壽美子氏（男女共同参画会議議員・武蔵工業大学教授・慶応義塾大学名誉教授）
参加者：約200名

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

当センターの開館20周年記念事業として「女性の自立・社会参加から男女共同参画へ共に生きて輝いて～」をテーマに男女共同参画フェスティバルを開催しました。

本県においても、政治・経済への女性の参画レベルはまだ低く、女性の能力が十分活かされていないのが現状です。そこで、女性がチャレンジすることは男性にも、次世代にもメリットをもたらし、社会経済の活性化につながり、一人ひとりが豊かさを感じられるような社会になることをより多くの県民に理解してもらおうと、記念講演で岩男壽美子氏に「女性のチャレンジ支援策」についてわかりやすくお話していただき、女性のチャレンジ支援の必要性について提言していただきました。

雇用・起業・NPO・農業・研究・各種団体・地域・行政等、新たな分野で女性が積極的に政策・方針決定に参画し、活動の場をさらに広げていくためには、数値目標を設定し、進捗状況の公表や企業での取組事例や身近なチャレンジモデルの紹介などの情報提供がますます大切になっていくと結ばれました。

参加者の声：

- 国が現在取り組んでいる支援策をお聞きし、今、なぜ構造改革が必要か、そのためには女性は何をしなくてはならないかなどについてよくわかりました。
- 「チャレンジ」の大切さを感じ、自分にあったチャレンジをしていきたいと思いました。
- 私の娘は、今研究分野で仕事をしています。夫はエンジニアです。せっかくキャリアを積んだのに子育てと仕事の両立に悩み、仕事を辞めなければならなくなりました。延長保育と学童保育を利用しても時間的にも無理なのです。二重保育が必要なのです。なんとか仕事を続けさせたいです。
- 非常に現実的なお話を聞くことができました。
- 女性にチャレンジ精神があっても行政や地域、大企業で男性が拒んで歓迎しないのが大きな原因だとも思います。雇用の年齢制限は、中止し、実力と能力のある人であれば再就職できるようにしてほしいです。
- 男女共同参画社会を実現するためには、私たち一人ひとりができるところから真剣に挑んでゆくことの大切さを再確認いたしました。
- 私は地方公務員ですが、我が国における男女共同参画の現状についてお話いただき、今後、仕事をすすめる上で大変参考になりました。
- 省庁を超えたネットワーク化はぜひ実のあるものにしてほしいです。

担当者の声：

大学生から70代までと幅広い世代の方々に「女性のチャレンジ支援策」について知っていただくことができました。また、大学生など若い世代や女性だけではなく男性からも質問や意見が出されたことで、男女共同参画やチャレンジ支援の必要性についての理解がより一層深まりました。

男女共同参画社会づくりに関する活動や県民の自主的な活動を応援する拠点施設として、自主事業や情報提供なども行っていきたいと思います。

女性のチャレンジ支援策について

この冊子に関するご意見、お問い合わせは
内閣府男女共同参画局推進課　まで
TEL:03-5253-2111(代表)　FAX:03-3592-0408
チャレンジ・サイト　http://www.gender.go.jp/e-challenge/